

多可町学校規模適正化基本計画

平成26年3月

多可町教育委員会

1. はじめに

全国的に少子化が進む中であって、多可町においても児童生徒数の減少に伴い、小中学校の小規模化が進行しており、児童生徒の社会性を育む上での教育環境や学校運営など様々な面における影響が心配されます。

そこで多可町教育委員会では、より良い教育環境を作るため、平成22年9月に学識経験者や保護者、地域の代表、学校関係者などからなる「多可町学校規模適正化検討委員会」に、多可町小中学校の適正規模と適正配置について諮問しました。

同検討委員会では、幼稚園児や小中学校の保護者を対象に実施された学校規模適正化についての意識調査などの結果も考慮しながら平成24年2月に「多可町小中学校の規模及び配置の適正化について」が答申されました。

この答申を受け、多可町教育委員会では、多可町小中学校規模適正化基本方針(以下「基本方針」といいます。)を定めました。それに基づき、平成24年7月に多可町のすべての区に、保護者や地域の代表、学校関係者などからなる「地域の学校教育のあり方を考える会」(以下「考える会」といいます。)を設置し、各区の小中学校について協議いただきました。特に八千代区の考える会では、地区別懇談会や保護者アンケート、住民アンケートを実施されました。また中学校については、各区の考える会から選出された委員で協議いただきました。

こうしてまとめられた意見書が平成25年9月末に多可町教育長に提出され、この意見書の内容を十分に尊重し、このたび多可町学校規模適正化基本計画を策定しました。

2. 小学校の状況と今後の進め方

(1) 中区・・・当面現状維持

中町南小学校は、平成31年度までは全学年各2学級の見込みです。中町北小学校は、全学年各1学級ですが、平成31年度においても各学年20人前後と推測され、基本方針にあるような「複式学級(*注1)が生じるような状況」ではありません。こうしたことから、中区の小中学校においては、当面現状維持とします。しかし、中区においても児童数の減少は進んでおり、その推移や多可町の他の区の状況も参考にしながら、検討・協議を進めていきます。

(*注1・・・児童生徒数が少ないために2つの学年を1つの学級としたもの。兵庫県の場合、2つの学年の児童生徒数が14人以内の場合に1つの学級となります。(小学校1年生を含む場合は8人以内です。))

(2)加美区・・・当面現状維持

平成 29 年度には松井小学校・杉原谷小学校ともに全学年各 1 学級となる見込みですが、複式学級が生じるような状況ではありません。こうしたことから、加美区の小学校においても、当面現状維持とします。しかしながら、平成 31 年度の加美区の小学校児童数は 258 人となる見込みで、これは平成 18 年度の松井小学校児童数(259 人)とほぼ同じ人数です。つまり、平成 18 年度の杉原谷小学校の児童数(190 人)分ほどの人数が減る見込みであり、今後さらに児童数の減少が進むことが予想されます。こうした状況を、保護者をはじめとして広く住民に周知し、検討・協議を進めていきます。

(3)八千代区・・・早急に統合

現在、八千代区の小学校は 3 校ともにすべて全学年各 1 学級です。

複式学級については、八千代西小学校では平成 26 年度に1つでき、平成 28 年度には2つになることが見込まれます。また八千代北小学校では平成 29 年度に1つでき、平成 31 年度には2つになることが見込まれます。

男女の比率では、現在八千代北小学校の2年生が女子1人という状況であり、八千代西小学校でも現在1年生が男女1人ずつの学年となっています。今後、両校では男女どちらかが1人または0人という学年がいくつかできることが予想されています。

こうした学校の小規模化により、人間関係の固定化や集団活動への影響が懸念されるといった現状を踏まえ、複式学級の解消や多くの子どもたちの学び合える環境を実現するため、八千代区の 3 小学校を早急に 1 つに統合します。

3. 中学校の状況と今後の進め方・・・当面現状維持

現在、加美中学校と八千代中学校がすでに全学年各 2 学級となっています。平成 33 年度には加美中学校で1学年が1学級という単学級が1つでき、平成 35 年度には八千代中学校でも単学級が1つ、さらに平成 37 年度には八千代中学校で全学年が単学級となることが予想されます。

中町中学校でも、現在は全学年各 3 学級ありますが、平成 27 年度には 2 学級という学年ができ、平成 34 年度には全学年各 2 学級となることが予想されます。加美中学校と八千代中学校の状況からみて、中町中学校もやがて単学級となることが懸念されます。

中学校では、それぞれの教科の教員が必要ですが、学級数が減少すると、配当される教員数が少なくなり、すべての教科に対応できるだけの教員が確保しにくくなります。

また、部活動についても生徒数の減少と、それに伴う教員の減少、それと相まって、近年は個人のニーズが多様化し、地域のクラブチームに加入する生徒もあり、既存の

部活動を維持することが困難になりつつあります。そのため部活動の数が減少し、今後さらに生徒の選択肢が減っていくと思われます。

このような状況から、中学校は当面現状維持としながらも、保護者や住民に、中学校における小規模化の課題を周知し、議論を重ね、方向性を見極めていきます。

4. 八千代区小学校の統合について

(1) 基本事項

統合する学校・・・八千代南小学校、八千代北小学校、八千代西小学校

統合後の新学校の校区・・・八千代区全域

統合時期・・・平成 28 年 4 月 1 日に 3 校を同時に統合

統合場所・・・八千代南小学校の施設を活用

(2) 八千代区小学校統合準備委員会の設置

統合の円滑な推進を図るため、八千代区小学校統合準備委員会を設置します。

構成員・・・各小学校の代表、各小学校及びキッズランドやちよ PTA 代表、地域の代表、識見を有する方

協議項目・・・新学校の校名・校歌・校章・校旗・通学方法・PTA 組織・その他統合に伴う必要事項

(3) 統合後の学校づくり

今まで八千代区の 3 小学校が育んできた伝統を大切にしつつ、新しい魅力ある学校づくりに取り組みます。そして、統合して良かったと思える学校づくりを目指します。

(4) 地域への周知

平成 26 年度当初に住民説明会を開催し、地域の方に小学校統合への理解と新しい魅力ある学校づくりへの協力をお願いします。

(5) 八千代区小学校統合後の跡地利用

八千代北小学校・八千代西小学校の校舎、体育館、運動場については、別途多可町全体の公共施設の利用計画の中で、地元と十分に話し合いをもちながら、地域活性化や交流が一層深まるよう、地域の将来を見据えた有効活用を検討します。